

10) 腹部膨満感を主訴とした後腹膜神経鞘腫の1例

中山 鰐淵 卓・篠川 主 (南部郷総合病院)
 勉・佐藤 巖 (外科)
 田中 泰樹・朴 鐘千
 渋谷 隆・前田 裕伸 (同 内科)
 岩淵 三哉 (新潟大学第一病理)

症例は69才女性。本年2月半ばより腹部膨満感あり、当院内科受診。腹部 echo, CT で後腹膜腫瘍と診断され、精査のため入院す。入院時現症、血液生化学検査等に特記事項なし。腹部 CT にて肝右葉後面～右腎上極に境界明瞭な腫瘍を認めた。血管造影では栄養血管が右腎動脈基始部から造影され、encasement, pooling 等の異常を認めず、又、腫瘍内部の血管新生なし。9月19日腫瘍摘出術施行。腫瘍と周囲組織の癒着は比較的疎であった。摘出標本は6×6×7cm, 150g, 被膜明瞭で一部嚢胞形成を認める充実性腫瘍であり、病理組織学的には良性神経鞘腫であった。後腹膜腫瘍中、良性神経鞘腫は2.0～6.9%と稀なものであり、本症例に若干の文献的考察を加えて報告した。

11) 急性腹症で来院した腹腔妊娠の1例

岡 至明・川合 千尋 (日本歯科大学新潟)
 川島 吉人・松木 久 (歯学部外科)
 中村 康夫 (中村外科・胃腸科)
 竹山 行雄 (竹山病院産婦人科)

急性虫垂炎を疑い、保存的療法で経過観察し、臨床症状は軽快したが、ゴナビステスト陽性であったため産婦人科へ紹介したところ、腹腔妊娠であった一例を経験したので報告する。

症例は26才の女性で、一週間来の下腹部痛を主訴に近医外来を受診し、急性虫垂炎も疑われるため当科へ紹介された。初診時、血圧 100/60mmHg, 全身状態良好で、圧痛、反跳圧痛を右下腹部に強く認めたが、末梢血白血球数 4500/mm³ と白血球増多はなく、貧血も著明ではないため、抗生剤投与により経過観察とした。入院第3日には圧痛、自発痛とも軽減したが、入院第4日にゴナビステスト施行したところ陽性であったので、翌日、産婦人科へ紹介したところ、子宮外妊娠と診断され、同日、手術施行された。手術所見では、妊卵は子宮前壁から右子宮広間膜にかけての腹膜に着床しており、腹腔妊娠と診断され摘出された。

12) イレウス開腹症例の検討

吉田眞佐人・阿部 要一 (木戸病院外科)
 魚谷 英之

1979年6月より1990年9月まで当科で開腹手術した悪性新生物、外ヘルニア嵌頓、小児腸重積症、術後麻痺性イレウスを除いた単純性イレウス35例、絞扼性イレウス16例に3例の上腸間膜動脈閉塞症を加えて検討した。絞扼性イレウスの10例が血行障害のため腸切除が施行されていた。上腸間膜動脈閉塞症の2例に腸大量切除が施行され、1例は血栓除去術を施行し腸大量切除を避けたが術後残存空腸は萎縮し結局短腸症候群となった。絞扼性イレウス、上腸間膜動脈閉塞症の早期診断が望まれた。単純性イレウスに比べ絞扼性イレウス、上腸間膜動脈閉塞症では鎮痛剤無効例、代謝性アシドーシス例が多い傾向にあり、腹部単純X線所見は無ガスイレウス、Pseudotumor sign (+) 例が絞扼性イレウスに多い傾向にあったが、CT、超音波診断なども有用と考えられた。

13) 消化管吻合におけるチクチク吻合法 (open sequential suture) について

本間正一郎 (本間医院(加茂市)
 元県立六日町病院外科)

消化管吻合は腹部外科手術における核心的手技であり、外科医は各自消化管吻合法に独自の経験的工夫を加えている。筆者も10数年前看護婦を助手に術者1人の体制で、穿孔潰瘍や腸閉塞等の緊急手術をする機会に恵まれ、この経験の中で工夫した消化管吻合法を今回チクチク吻合法として報告した。

胃腸管吻合の基本はやはり層々の接合と内腔の整合にある。チクチク吻合では漿膜縫合後 1cm ほどの切開を加え、部分全層縫合とし、以後順次この部分縫合を繰り返す。胃・十二指腸吻合、小腸・小腸吻合、小腸・大腸吻合、更に腹壁変則3層閉鎖法を例示する。部分縫合の繰り返しであるチクチク吻合法には、1:層々接合に部位・状態により全層縫合、Gambie縫合、縦マットレス縫合の選択が、2:内腔狭窄防止として斜吻合の採用や内反部分の平坦化への工夫が、3:血行障害対策として止血程度の結紮(吻合結紮)や縫い代の長短化への工夫がし易い利点を挙げられる。